

創業江戸後期 伝統工芸「京和傘」

**日吉屋**



株式会社 日吉屋

〒602-0072  
京都市上京区寺之内通堀川東入百々町546

OPEN 10:00~17:00(月~金)  
MAIL [info@wagasa.com](mailto:info@wagasa.com)  
TEL 075-441-6644  
FAX 075-441-6645



## 日吉屋について

### About Hiyoshiya

日吉屋の創業は江戸時代後期、初代当主墨蔵が京都五条・本覚寺周辺に和傘工房を構えたことに始まります。その後、上京区東西町に移転し、二代目与三次郎の代に、皇女ゆかりの尼寺である百々御所（宝鏡寺）の門前に店舗を構えました。以来百数十年にわたり、和傘を作り続けています。

時代の変遷の中で、京都に残る唯一の京和傘制作工房になってしまった現在も、各地に伝わる伝統行事や祭礼で使用される和傘の製作・修復や、各種伝統芸能の小道具の制作・修理などを行っています。培われてきた独自の技術を活かし、日本文化の継承に努めるとともに、「伝統は革新の連続」という信念のもと、千年の歴史を誇る和傘が持つ優れた構造や伝統美を活かし、現代の生活に適したデザイン・インテリア商品の提案にも取り組んでいます。

## 目次

### 京和傘について

和傘の歴史と京和傘	2
京和傘の制作工程	3

### 日吉屋の定番商品

本式野点傘	4
妻折野点傘	8
差し掛け傘(祭典傘)	12
特選番傘	16
蛇の目傘	20
デザイン和傘 ryoten	24
和風洋傘ばらそる	30

### 野点用品

鉄製傘立台・木製傘立て台	36
床机・毛氈	37

### 特注和傘

名入れ・絵付・デジタル印刷	38
---------------	----

### 修復

修復事例	42
------	----



## 京和傘の制作工程

厳選された自然素材の特性を活かしながら作られた京和傘には、伝統に裏打ちされた雅やかさと優美さがあります。

是非一度手に取ってご覧いただき、本物の京和傘の魅力と、背景にある日本のものづくりの歴史を感じていただければ幸いです。



### 1 下事

傘の開閉の要になる上下一対の木製部品「ロクロ」と、竹骨を一本ずつ繋ぎ合わせて骨組みを作ります。



### 2 まくわり

一本ずつ異なる竹の癖を読み、竹骨の間隔を均等に調整します。傘の仕上がりを大きく左右する重要な作業です。



### 3 軒紙張り

傘の外周に「軒紙」を張ります。まくわりで調整した骨間隔の固定、胴張り作業の糊しろ、補強のために行います。



### 4 中置き張り

竹骨が合わさる「中節」部分に带状に和紙を張ります。装飾と摩擦による胴紙への負担を軽減する役割があります。



### 5 胴張り

裁断した和紙・胴紙を骨組みに張ります。和紙の継ぎ目が分からないよう張り合わせるには、熟練の技を要します。



### 6 みの

傘上部の天ロクロと胴張りの間に和紙を落とし込み、水を使いひだを作るように張っていきます。

## 和傘の歴史と京和傘

和傘は奈良時代前後に仏教やお茶、漢字などと同じく中国より伝来したと言われています。平安時代の絵巻物に登場する和傘は現在のような形ではなく、かさ(蓋・笠)であり、天蓋や覆い状のようなもので、貴人に差し掛けて日除けや魔除け、権威の象徴として使用されていました。この時代、傘は開いたままで閉じることができなかったようです。

和傘を閉じたり開いたりできるようになったのは安土桃山時代と言われています。今では当たり前になった傘の開閉機構は、実は非常に繊細な技術でつくられており、数ある工芸品の中でも和傘ほど複雑に可変する構造を持つ工芸品は多くありません。和傘が広く庶民にも使われ始めたのは、分業制が発達し大量に作られるようになった江戸時代中期以降のことで江戸期の浮世絵には和傘をさしている町人の姿が多く見られ、生活必需品として広く普及していたことがうかがえます。

千年もの間、古都として栄えた京都は、日本文化の中心地であり、和傘も早くから普及しました。都ならではの審美眼の厳しい人々に使用される中で、華美な装飾を排したシンプルさと最高級の素材と技術で仕上げられた、京都独自の上品さを持つ和傘は、「京和傘」として発展しました。

最盛期には日本全国で年間1700万本以上生産されていた和傘ですが、明治時代に洋傘が輸入され、西洋化が進んで普及すると急速に衰退し、現在、和傘の工房は全国的にも十数軒を残すのみとなりました。京都独自の技法を用いた伝統的な「京和傘」制作を行う工房も弊社1軒を残すのみとなり、昔のように生活必需品として使われることは少なくなりましたが、現在でも全国の寺社仏閣の伝統行事や祇園祭・葵祭などに代表される各地の祭り、歌舞伎や日本舞踊、茶道等に使われる伝統工芸品として日本文化の中で愛され続けています。



### 7 手元

傘下部の下ロクロ側に和紙を張ります。ロクロと小骨の可動による破損の防止と、装飾を兼ねています。



### 8 姿付け

和紙に正しいたみ癖が付くように少しずつすぼめながら、親骨に沿って折り目を付け、たたんでいきます。



### 9 頭包み

天ロクロに和紙を丁寧に貼り付け、少しずつ頭部分を整えながら、均等に形を作り上げていきます。



### 10 骨上塗り

骨の上に、カシュー(または漆)を塗ります。見た目の美しさのほか、骨上の部分を保護する役目もあります。



### 11 油引き

和傘に防水効果を持たせるため、亜麻仁油をうすく均一に塗布し、耐久性を高めます。



### 12 天日干し

天日に干して油を乾燥させ、撥水・防水効果を持たせます。夏で2週間前後、冬や、梅雨時期は更に時間を要します。



### 13 糸飾り

傘の内側を糸で色彩豊かに装飾します。竹骨の補強の役割もあります。糸飾りをしないデザインの和傘もあります。



### 14 カップ付け

傘の頭部分を覆うように「カップ(防水生地)」を取り付けます。吊り下げられるよう真田紐と綿糸で固定し完成です。



## 本式野点傘

### Honshiki-Nodate-Gasa

茶道家元御用達の本式野点傘は、日吉屋が誇る「京和傘」を代表する伝統の逸品です。「直の端（ちよくのはし）」と呼ばれる美しいシルエットが特徴で、無地のほか、「段張り（だんぱり）」と呼ばれる高度な技法を用いて赤白・緑白の二色張りの制作も行っています。

厳選された素材を活かした、格式高い場面に相応しい「京和傘」の最高級品です。

\*野点(のだて):屋外で催される茶会のこと。野点傘は茶室の役割を果たすとも言われます

## お茶席を演出する 「佗茶」の大傘

本式野点傘は、三代目伊三郎の代に、裏千家家元十四代 淡々斎宗匠から、当時の上皇の立太子礼(りつたいしれい)を寿ぎ、1952年(昭和27年)京都で催された祝賀茶会用の特注品としてご用命いただいたことをきっかけに生まれました。

「佗茶(わびちゃ)にふさわしい野点傘を創りたい」と思いを受け、宗匠の求める「わび・さび」の世界感に相応しい野点傘を生み出すため、長く試行錯誤を繰り返した逸話が残ります。和紙を何度となく染め直し、宗匠の求める色を追い求めた結果、日吉屋独自の趣ある色合いが生まれたほか、軒部分は「直の端(ちよくのはし)」と呼ばれる真っすぐな形状、内側はシンプルな和紙飾りを採用し、華やかな装飾を極力排した普遍的なデザインとなりました。

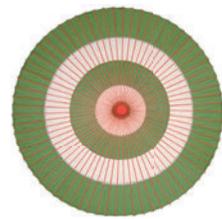
厳選された最高級の手漉き和紙と竹を用いて、熟練の職人が精魂込めて作り上げたその姿には、優雅さと凛とした気品が漂います。



無地 赤

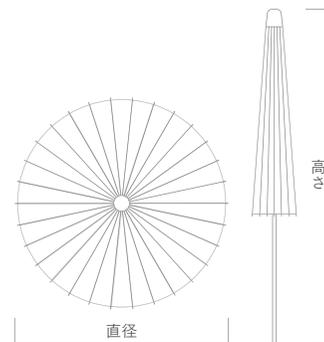


段張 赤白



段張 緑白

仕様	直径(mm)	高さ(mm)	骨目	色
2.5 尺	φ1480	H2150	50 目	無地 赤
3 尺	φ1780	H2150	60 目	無地 赤
3.5 尺	φ2180	H2500	70 目	無地 赤
3.5 尺 段張	φ2180	H2500	70 目	赤白 / 緑白
5 尺	φ2750	H2660	50 目	無地 赤
5 尺 段張	φ2750	H2660	50 目	赤白 / 緑白





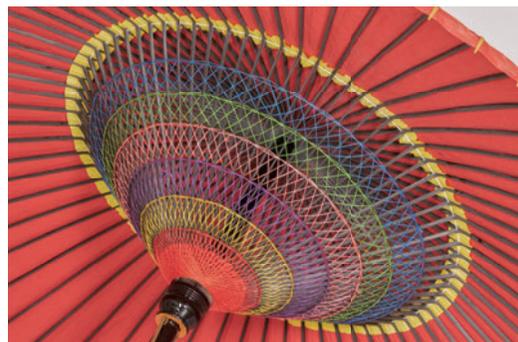
## 妻折野点傘

Tsumaore-Nodate-Gasa

妻折野点傘(つまおれのだてがさ)は傘の端の部分が湾曲したデザインになっており、内側の小骨に綺麗な飾り糸を多用しているのが特徴です。現在最も普及している野点傘で、神社仏閣や各地の祭礼、伝統行事のみならず、店舗の内装など、幅広く使用されています。

## 伝統美を映す 「雅と華」の大傘

妻折野点傘(つまおれのだてがさ)は、古代中国から仏教と共に日本に伝来したとされる、和傘のルーツにあたる大きな傘です。特徴的なのは、親骨の先端が優雅に湾曲したシルエットと、内側に施された多色の糸飾りです。この糸飾りが華やかさを引き立て、黒染めの竹骨と赤い和紙との美しいコントラストが際立ちます。太陽の下で広げると、特にその色合いと形状が映え、周囲に華やかな雰囲気を与えます。



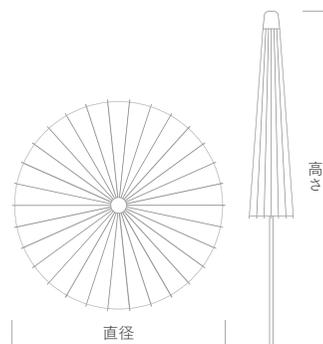
妻折野点傘は、屋外で行われる茶会や神社仏閣での伝統行事、婚礼など、格式のある場面で幅広く使用されます。その優雅なデザインは、旅館や和食店、休憩所などの和風インテリアにも人気があり、静かな美しさで空間を引き立てます。



単なる道具にとどまらず、伝統と美が融合した妻折野点傘は、今も多くの場面でその魅力を発揮し続けています。



無地 赤



仕様	直径(mm)	高さ(mm)	骨目	色
2.5 尺	φ1400	H 1950	52 目	無地 赤
3 尺	φ1690	H 2300	70 目	無地 赤
3.5 尺	φ2000	H 2500	70 目	無地 赤





## 差し掛け傘 (祭典傘)

Sashikake-Gasa Saiten-Gasa

名前の通り貴族や僧侶、神官等の高貴な方に対して、お供の者が差し掛けるために考案された和傘です。近年では婚礼の際に新婦に差し掛けるなど、一般に広くお使いいただいております。

野点傘よりも小さく軽く作られておりますので、お取り扱いが比較的簡単です。デザインも飾り糸などの装飾がなく傘の端もまっすぐで本式傘に近い、シンプルで上品な和傘となっております。

## 格式ある祭礼を彩る 伝統の美

差し掛け傘は、番傘をひと回り大きくした和傘で、主に誰かに差し掛ける目的で作られています。骨は、素の竹を割ったやや厚めの竹を50本使用し、長い持ち手の中棒を取り付けます。竹骨の上には国産の手漉き和紙を張り、天然の亜麻仁油を塗布して天日干しで乾燥させることで防水効果を持たせています。そのため、日除けとしてだけでなく、雨の日でも安心して使用できます。

大陸から日本に傘が伝来したのは平安時代のこと。当時の傘は魔除けや宗教行事に使われる神聖なものであり、従者が高貴な人に差し掛けていた様子が古い絵画などに残っています。この歴史を受け継ぐ差し掛け傘は、現在でも神社仏閣の行事で神主や僧侶が使用したり、和装を着た花嫁に差し掛けられたりすることが多いです。伝統的な美しさと機能を兼ね備えた差し掛け傘は、今でも伝統行事に欠かすことができない名脇役として愛されています。



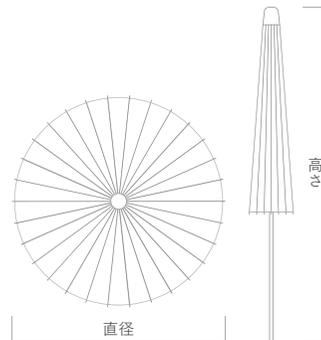
※ 柄は白木か黒塗り、骨上はご希望の色をお選びいただけます。



無地 赤



無地 白



仕様	直径(mm)	高さ(mm)	骨目	色
2.3 尺	φ1360	H1240	50 目	無地 赤 / 白





## 特選番傘

### Tokusen Ban-Gasa

特選番傘は厳選された竹骨と最高級の手漉き和紙のコントラストが美しい雨傘です。素の竹を割ったやや厚めの48本の竹骨と太い柄竹を用いた、頑丈な作りが魅力です。

竹骨の上に熟練の技で手漉き和紙を張り、天然の亜麻仁油を引いて、天日干しで乾燥させることで防水しており、雨の日も安心してお使いいただけます。

ほのかな亜麻仁油の香りや、頭上でパラパラと鳴る雨音など、五感で雨の日をお楽しみください。

## 「番」の名のとおり 普段使いに

番傘の「番」には諸説ありますが、「いつもの・普段使いの」を意味する説が有力です。これは「番茶」や京都の家庭料理「おばんざい(お番菜)」と同様に、気取らず日常的に使える存在であったことを示しています。昔は番傘に屋号や家紋、文字を入れ、職場や学校、旅館などの置き傘としても広く使われていました。そのため、番傘は特別な場面だけでなく、日常生活で重宝される普段使いの雨傘でした。

番傘の中でもっともポピュラーな色は白ですが、日吉屋の特選番傘(白)は黒い軒紙と、骨上が茶色と黒に塗り分けられた伝承のデザインが特徴です。このデザインは、シンプルでありながらも落ち着いた上品さを持ち、長年にわたり愛されています。また、引き締まった印象の黒や華やかな赤の番傘も人気があり、祝賀行事でもよく使用されます。番傘はその普遍的なデザインと実用性から、今も多くの人々に親しまれ、和傘の文化を象徴する存在となっています。



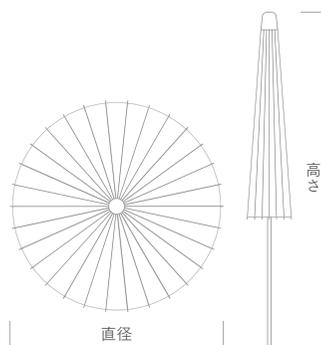
無地 赤



無地 白



無地 黒



仕様	直径(mm)	高さ(mm)	骨目	色
1.9 尺	φ1130	H 750	48 目	無地 赤/白/黒





## 蛇の目傘

### Janome-Gasa

蛇の目傘(じゃのめがさ)は、番傘に比べて細身の雨傘です。44本の竹骨が作り出す軽やかなシルエットは、男女問わずお使いいただけます。黒塗りを施した細身の木柄には、持ち手部分に籐を巻き、金属製の石突をつけました。さらに傘の内部にも絹糸で美しい糸飾りを施しており、意匠性を高めています。

竹骨の上には色鮮やかな国産の手漉き和紙を張り、天然の亜麻仁油を引いて、天日干しで乾燥させることで防水しており、雨の日も華やかな気分で安心してお使いいただけます。ほのかな亜麻仁油の香りや、頭上でパラパラと鳴る雨音など、五感で雨の日をお楽しみください。

## 糸飾りが美しい 「縁起もん」の傘

大正時代に北原白秋が作詞した童謡「あめふり」に「雨あめふれふれかあさんがじゃのめでおむかえうれしいな」と歌われているように、蛇の目傘はかつて日本の家庭で普段使いの雨傘として広く親しまれていました。

「蛇の目(じゃのめ)」とは、文字通り蛇の目のような丸い輪模様を指します。このデザインは、古来より蛇が神の使いとされ、魔除けの力を持つと信じられていたため、厄除けや幸運を祈る意味を込めて作られました。現代では、模様のない無地の傘も「蛇の目傘」と呼ばれることがあるので、丸い模様を施した傘を区別するために、「中入(なかいり)」と呼びます。中入傘は、色和紙と白和紙で丸い模様を張り分け、視覚的に美しいデザインを生み出します。かつての家庭での日常使いから、現在では伝統行事や格式のある場面で使用されることも増え、蛇の目傘はその象徴的なデザインとともに、日本の文化に深く根付いています。



無地 赤



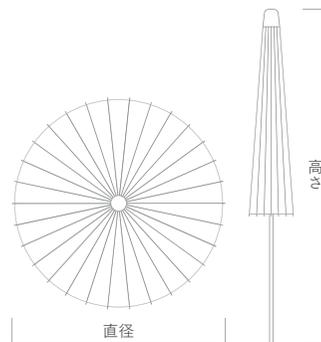
無地 紫



中入 赤白



中入 紫白



仕様	直径(mm)	高さ(mm)	骨目	色
1.9 尺	φ1060	H 740	44 目	無地 赤 / 紫
1.9 尺 中入	φ1060	H 740	44 目	赤白 / 紫白



## デザイン和傘 ryoten

Design Wagasa "ryoten"

雨天でも晴天でも使えて、和傘よりはるかに軽く、洋傘より環境負荷を軽減。かつて江戸時代に実際に使われていた晴雨兼用傘「両天傘(りょうてんがさ)」のDNAを受け継ぎつつ、現代の暮らしにふさわしい、実用性を兼ね備えたデザイン和傘が「ryoten」です。

洋傘の骨が通常8から16本なのに対し、ryotenはその4倍の36本の竹骨を繊細に組み上げながらも、一般的な和傘と比べて約半分の軽さ(約250g)を実現しました。傘骨やロクロ部分には和傘と同じ自然素材である竹と木を使っており、伸縮できるスライドシャフトの柄はアルミ製でリサイクル可能。傘生地には耐久性が高く、幅広いデザイン表現が可能な防水ポリエステル不織布を採用。廃棄する際には、素材ごとにバラバラに分解できます。

和傘の美しさと洋傘の利便性を両立させ、和傘でもなく、洋傘でも無い、環境に配慮した「第三の傘」として生まれ変わりました。

## 和傘のエコを継承した 驚くほど軽い晴雨兼用傘

ryotenは、和傘の伝統的な構造を現代の暮らしに合わせてリデザインした日吉屋オリジナルの晴雨兼用傘です。傘骨やロクロ部分には自然素材の竹と木を使用し、柄には、環境に配慮したリサイクル可能なアルミ製スライドシャフトを採用しています。これにより、丈夫で長持ちするだけでなく、環境への負担も軽減しています。洋傘は閉じると生地が骨の外側に張り出し、収納時に水滴が服に付着することがありますが、ryotenは和傘と同じく生地が内側に収納されるため、雨滴が服に触れにくく、快適に使用できます。

また、柄をスライドさせると約54cmとコンパクトに収納でき、専用の傘袋には手提げタイプとショルダー紐タイプの2WAYで収納可能。これにより、どんなシーンでも気軽に持ち運ぶことができます。和傘ならではの美しいデザインと実用性を兼ね備えた ryoten は、晴れた日はもちろん雨の日でもお出かけをいつもより少し、楽しくしてくれる傘です。



真紅



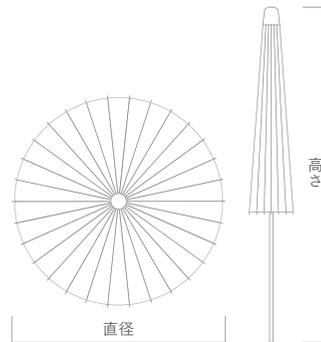
墨



若草



空



直径(mm)	高さ(mm)	骨目	色
φ840	H 690 (収納時H 545)	36 目	真紅 / 墨 / 若草 / 空





## 和風洋傘 ぱらそる

### Parasol

日吉屋の和風洋傘「ぱらそる」は、着物にも、洋服にも合うようデザインされた日傘です。生地は、柿渋染めの麻生地を使用しており、柿渋に多く含まれるタンニンは、消臭・抗菌の他、高いUVカット効果があると言われています。天然素材でありながら、機能面でも安心してご使用いただける商品です。

## 使うほどに味わいが増す 柿渋染めの和日傘

「ぱらそる」は、和装にも洋装にもぴったりの和風洋傘（日傘）で、日吉屋オリジナルのデザインです。お客様のご要望を受けて企画され、涼しげな麻の生地を天然の柿渋で染め上げました。

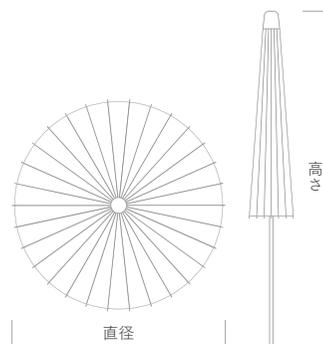
柿渋は日光に当たるほど色が濃く変化し、独特の風合いを楽しめます。手作りの温かみを感じられる「ぱらそる」は、着物との相性はもちろん、普段の洋服にも合わせやすく、夏のお出かけを涼しげに演出します。生地には柿渋染めの麻を使用し、柿渋に含まれるタンニンには消臭・抗菌効果に加え、優れたUVカット効果があるとされています。天然素材ならではの機能性を持ちながら、安心して使用できる日傘です。和装にも洋装にもマッチするデザインに加え、軽量で持ち運びやすいため、旅行や外出時にも便利。夏の強い日差しから守りつつ、エレガントで涼しげな印象を与えるアイテムです。どんなシーンでも活躍し、夏の必需品として重宝します。



※ 追加でUVカット加工も承ります。



直径(mm)	高さ(mm)	骨目	色
φ810	H760	8目	輪とんぼグレー / ベージュ
φ810	H760	8目	とんぼ渦グレー / ベージュ
φ810	H760	8目	無地黒 / グレー





## 野点用品

### Outdoor Tea Ceremony Items

日吉屋では、各種野点傘だけでなく、野点関連用品を取り揃えております。格式高い日吉屋オリジナルデザインの本式木製傘立台や、汎用の鉄製傘立台に加え、床机、毛氈など各種野点傘の種類やサイズに合わせてお選びいただけます。厳選された素材と職人技が織り成す伝統的な空間が、野点の場を雅やかに演出します。お茶席はもちろん、イベント等、様々なシーンでご活用ください。



## 本式木製傘立台

Honshiki Wooden Stand for Nodate-Gasa

本式木製傘立台は、本式野点傘に合わせて日吉屋オリジナルデザインで作られた高級傘立台です。4本の優雅な曲線を描く脚が傘本体と調和し、美しさを引き立てます。安定感があり、傘の重量をしっかりと支え、転倒防止にも役立ちます。また、本式野点傘に限らず、すべての種類の野点傘にも対応しており、幅広い用途でお使いいただけます。

※ 強風下での使用は転倒の危険があるため、お控えください。  
 ※ 組み立て式ですので、コンパクトに畳んで収納できます。

幅 (mm)	高さ (mm)	素材
W650	H800	木



## 鉄製傘立台

Metal Stand for Nodate-Gasa

本式から妻折まで幅広い野点傘が使用できる汎用の鉄製傘立台です。黒塗りで高級感があり、お茶席はもちろん、イベント等、様々なシーンでご使用いただけます。土台と軸を取り外すことができ、分解収納が可能ですので保管の際に場所を取りません。重量があり、様々なサイズの野点傘を安定して立てることができる傘立台です。

※ 屋外での使用や大型野点傘を使用する際はベース板に杭を打つか、ブロックなどで補強し、転倒防止対策を行ってください。

幅 (mm)	高さ (mm)	素材
φ490	H350	鉄



2人掛け (折り畳み式)



3人掛け

## 床机

Shogi

主に野点 (のだて: 屋外で催されるお茶席) の席で使用される竹製の腰掛です。野点傘や毛氈 (もうせん) と合わせてご使用いただくと、雅やかに野点の場を演出することができます。

自然観あふれる京銘竹の美しい色合いと質感は野点の席に最適です。お茶席に限らず屋内外のインテリアとして、あらゆる場所でお使いいただけます。

仕様	幅 (mm)	奥行 (mm)	高さ / 厚み (mm)	素材
床机 2人掛け (折り畳み式)	W1000	D360	H400	竹
床机 3人掛け	W1370	D370	H450	竹
毛氈 天壇	W1900	D950	H3	毛 100%
毛氈 寿老	W1820	D910	H2	毛 100%



## 毛氈 (もうせん)

Mosen

主に野点の席で使用される毛織物の敷物で、床机等にかけて使用します。野点傘や床机と合わせることで、雅やかな雰囲気演出します。毛100%で防虫加工が施されており、安心してお使いいただけます。サイズは厚さと大きさを各種取り揃え、お茶席だけでなく、旅館や料亭、寺社などの和風な場所でもご利用いただけます。家庭でも、優雅な空間作りに最適です。



## 特注和傘（名入れ・絵付・デジタル印刷）

Taylor-made WAGASA

日吉屋が手掛ける特注和傘は、百年以上の歴史を誇る伝統技術を基に、熟練の職人たちが一つ一つ心を込めて仕上げています。お客様のご要望に応じて、傘の種類から和紙、糸飾りの色、さらには文字やロゴ、文様など、デザインを自由にカスタマイズしていただけます。

また、デジタル印刷にも対応しており、細かなデザインや色合いを忠実に再現することが可能です。特注和傘の制作は1本から承っており、個別のお見積りを基に制作をいたしますので、まずはお気軽にお問い合わせください。

雨傘としての実用的なご使用はもちろん、インテリアや大切な方への贈り物としても最適です。世界にひとつだけの特別な和傘を、ぜひお楽しみください。

## オーダー手順

特注和傘の制作も承っております。

1本から制作が可能です。お気軽にお問合せください。

1. 各種和傘（野点傘、差し掛け傘、特選番傘、蛇の目傘）をお選びいただけます。
2. 傘に使用する和紙や糸飾りの色をお選びいただけます。
3. 文字やロゴ、家紋や、プリントなど、希望されるデザインをお伺いした後、「完成イメージ」をご確認いただけます。
4. お見積りをご確認いただき、制作を開始いたします。

## 文字色と書体

楷書、行書、勘亭流、一般的な書体、指定書体からお選びいただけます。

指定書体の場合は見本をご用意ください。

文字色は、黒、赤、金、銀等の一般的なお色味からお選びいただけます。

楷書

行書

勘亭流

日吉屋

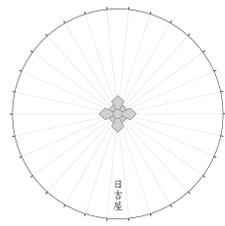
日吉屋

日吉屋

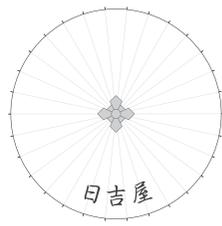
## 文字やロゴ、家紋の配置

以下、文字や家紋の配置例です。ご注文の際にご確認ください。

※複雑なデザインの場合は、ご希望に沿った配置が出来ない場合がございます。予めご了承ください。



タイプA  
縦書き



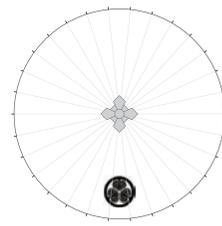
タイプB  
まわり文字



タイプC  
骨の上



タイプD  
ちらし文字



タイプE  
家紋/ロゴ入れ

## デザイン印刷

日吉屋オリジナル開発、和傘用「和紙調ポリエステル不織布」を用いたデジタル印刷も承っております。

多様なデザイン表現が可能です。詳しくはお問い合わせください。



NAKED 光の神苑 平安神宮 光彩和傘



## 和傘の修復

### Repair

和傘は木、竹、和紙といった天然素材を使用し、作られています。そのため、使い込むほどに味わいが深まる一方、年月と共に様々な箇所での修理が必要になることもあります。私たちは、お客様の大切な和傘を少しでも長くご愛用いただけるよう、修復サービスをご提供しております。

修復内容はさまざま。傘の状態をしっかりと確認した上で、修理の可否、納期、金額などについてご案内させていただきます。修復をご依頼いただきましたら、和傘が再び息づくよう、心を込めて修復作業を行います。

世界に一つしかないお客様の大切な和傘を、その思い出はそのままに出来る限り元の姿に修復し、末永くお使いいただけることを私たちは心より願っております。お手元の和傘に関するお悩みがございましたら、どうぞお気軽にお問い合わせください。

## 修復事例

修復例1：日本三大祭のひとつ、祇園祭りで使用された差し掛け傘（長刀鉾保存会様）

修復前



修復後



修復例2：画家サルバドール・ダリの京友禅の技法を用いた直径3mの和傘（ダリ美術館様）

修復前



修復後

